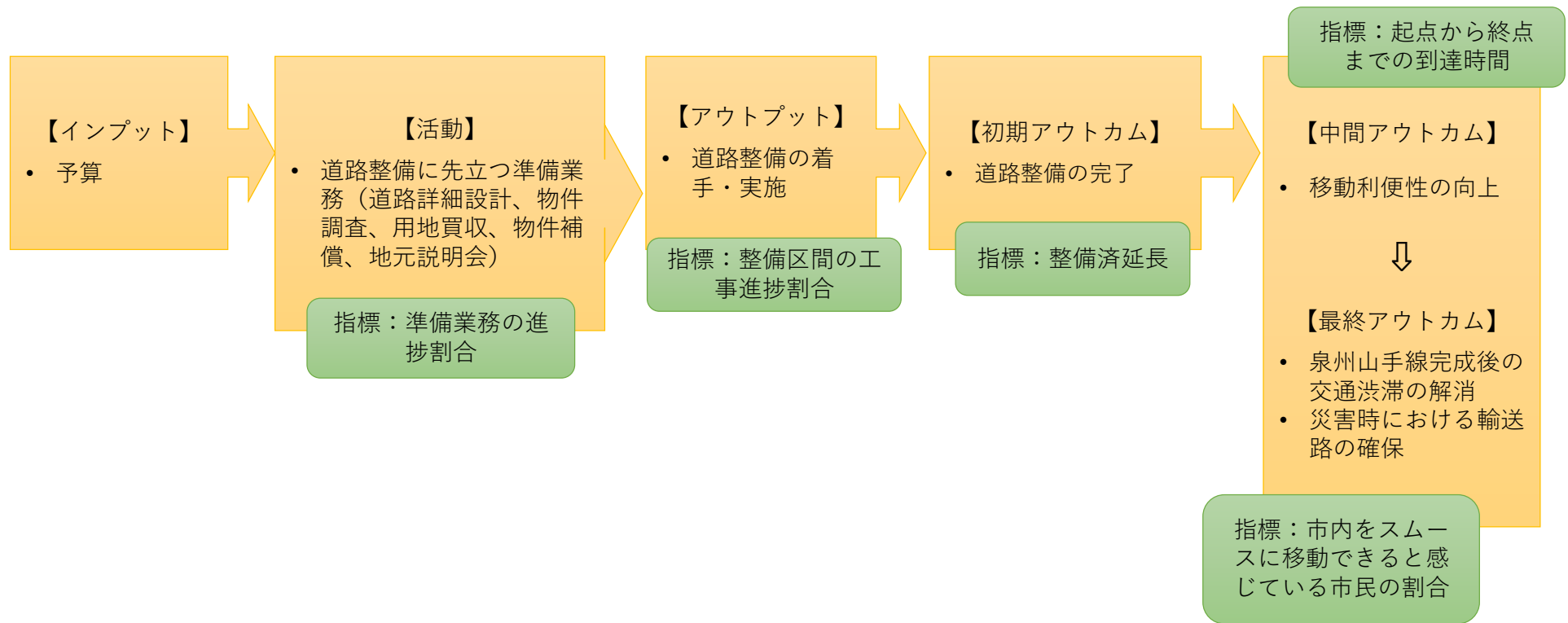


【R 6 年度】重点目標の取組・概要（泉州山手線沿道に係る田治米畑町線の道路整備[田治米畑町線整備事業]

担当課（内線）	道路整備課 湍川（内線3024）	重点目標の方向性	泉州山手線沿道を中心とした拠点形成とアクセス性の向上
重点目標	経済・交流が活発な岸和田の実現	行政の役割	幹線道路や市道の整備・管理を行い、定説な道路ネットワークを形成する
現状と課題		課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）さ	
（都）田治米畑町線は、（都）磯之上山直線を起点とし、（都）貝塚半田流木線に至る市内の南北軸の重要な路線であり、「岸和田市交通まちづくりアクションプラン（総合交通戦略編）」において、市内幹線道路の整備推進路線に位置付けられている。 本事業区間はそのうち府道春木岸和田線より星和上松台までの730mである。本事業により市内の東西軸である（都）岸和田中央線と（都）岸和田港福田線を接続し、交通処理機能を強化するとともに、（都）泉州山手線完成後に予想される周辺道路における交通渋滞の解消を図る。 また、本路線は「岸和田市地域防災計画」において地域緊急交通路に指定されており、防災上も重要な路線であることから、当該区間を整備することにより災害時における輸送路の確保を図る。		【中期的(4～5年後)にめざす成果】 ・本事業区間の道路整備を完了し供用開始を行う。 【成果に向けての各年度の進め方】 ・（R 6） 池部等の道路詳細設計、物件調査、物件補償、用地買収、道路整備工事の準備 ・（R 7） 物件調査、用地買収、物件補償、道路整備工事 ・（R 8～）物件調査、用地買収、物件補償、道路整備工事 【R 6 年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】 ・地元町会や関係地権者へ丁寧な説明を行い、池部等の道路詳細設計、物件調査、用地買収、物件補償を進める。 ・用地買収の進捗に伴い、可能な範囲から道路整備工事の準備を進める。	
R 6 年度の事業費（内訳）			
	R 6 現年	R 5 繰越	
R 6 全体事業費	401,515千円	53,134千円	
・ 測量試験費	91,900千円	20,001千円	
・ 用地費	264,291千円	7,748千円	
・ 補償費	32,629千円	25,385千円	
・ 事務費	12,695千円		
※特定財源：	160,168千円	19,673千円	
（国交付金：防災・安全交付金）			
R 7 年度以降の想定事業費（ランニング経費）		取組の進捗・成果を測る指標	
（R 7） 443,504千円 ※特定財源 169,461千円 （R 8～） 1,836,239千円 ※特定財源 996,964千円		・ 起点から終点までの到達距離（自動車） 6分(L=2.5km, V=25km/h) [2021] →1分(L=0.73km, V=40km/h) [2026] ・ 起点から終点までの到達距離（歩行者） 19分(L=1.5km, V=80m/min) [2021] →9分(L=0.73km, V=80m/min) [2026]	
		成果・指標が未達成の場合の取扱い	
		※必ず縮小・廃止時期を記載すること ハード面の整備事業であるため、事業化完了後に事業効果が発現される。	

【R6年度】重点目標の取組・ロジックモデル（泉州山手線沿道に係る田治米畑町線の道路整備[田治米畑町線整備事業]）

ロジックモデル【事業立案時点】



その他（財源、他団体の状況、行政サービスとしての適正性について など）

【財源】
（国）防災・安全交付金

■ 中期的にめざす成果に対する達成度



- ・ 本事業区間の道路整備を完了し供用開始を行う。

■ R 6 年度において実施・実現できたこと

- ・ 池部等の道路詳細設計を実施
- ・ 用地買収、物件補償を実施 46%完了
- ・ 物件調査を新規1件実施

■ R 6 年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）



- ・ 池部等の道路詳細設計、物件調査、物件補償、用地買収、道路整備工事の準備

■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指 標 名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	R 6 年度実績値
	起点から終点までの到達距離（自動車）	分	6分(L=2.5km, V=25km/h) (2021)	1分(L=0.73km, V=40km/h) (2026)	
	起点から終点までの到達距離（歩行者）	分	19分(L=1.5km, V=80m/min) (2021)	9分(L=0.73km, V=80m/min) (2026)	

■ R 6 年度において実施・実現できなかったこと

- ・ 一部予定していた用地が取得出来なかった。

■ 課題分析

- ・ 国交付金が要望に対し、内示額が低かった。
事業実施にあたっては計画的な財源確保が必要となる。

■ 次年度以降の予定・改善内容

- ・ 着実に事業推進が図られるよう、必要な財源確保に向け、国及び大阪府要望していく。
- ・ ハード面の整備事業であり、完成後に事業効果が発現されるため、成果測定は事業完了後となる。